



表面



背面

て全国的に有名な地域で、産出する石材は通称「竜山石」と呼ばれる流紋岩質溶結凝灰岩（考古学上の呼称）です。

その良質な石材は、中世・近世そして近代と受け継がれ数多くの優れた石造物が造られています。縁あって市内の石造遺品

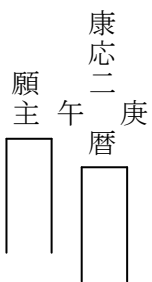
を調査中ですが、中世在銘の石造遺品を検出したので紹介します。周知の中世在銘の石造遺品は別表を参照ください。

市内には、日本三奇の一つとされる浮石、生石神社の御神体「石宝殿」があります。神社周辺は古墳時代から、石材の供給や石棺の製作地として

〔中筋東の地藏立像石仏〕
中筋を通る旧道沿い、白矢薬師堂から西へ約百メートル中筋五丁目十番八号の角に祀られています。

石仏は、竜山石製で下端をコンクリートで固めてあります。現在の表面は、五弁の蓮華座上に右手に錫杖、左手で宝珠を捧げる像高二九・三センチある地藏菩薩立像を彫っています。背面には、中央上部に種子（仏・菩薩などの各尊を一字で表した梵字。）でキリーク（阿弥陀如来）左にサク（勢至菩薩）右の部分は剥離しているが、サ（観音菩薩）が彫ってあったと思われる、種子で阿弥陀三尊を表しています。

キリークの下側に次の銘文を刻出しています。



康応二年（一三九〇）は南北朝時代後期末の年号です。

（市史編さん特別執筆者

藤原良夫）

①五輪塔	文保二年（1318） 阿弥陀町阿弥陀 共同墓地
②五輪塔	暦応五年（1342） 阿弥陀町阿弥陀 大日寺
③地藏石仏	康永四年（1345） 阿弥陀町阿弥陀 共同墓地
④宝篋印塔	康暦二年（1380） 時光寺町 時光寺山門前
⑤地藏石仏	至徳三年（1386） 中筋二丁目 西の地藏堂
⑥地藏石仏	文安四年（1447） 阿弥陀町阿弥陀 共同墓地
⑦地藏石仏	文明四年（1472） 米田町神爪六丁目 共同墓地
⑧十三仏	永正二年（1505） 曾根町 黒岩磨崖仏
⑨弥陀石仏	永正四年（1507） 阿弥陀町阿弥陀 大日寺
⑩宝篋印塔	弘治二年（1556） 高砂町西宮町 個人宅